

このヒトに
ボランティア編 1
聞いてみた

あい だ てつ こ 相田 哲子 さん (74歳)

[チーム アイダー]



ボランティア仲間
手品のレクチャーを
行う相田さん

1本のビデオが きっかけで始まった

現在は手品やリズム体操、歌など、数多くのボランティア活動に関わる相田さん。64歳で会社を退職。その後、参加した近所のカラオケの会に女優の浅香光代さんの後援会長をやっている人がいて、その関係から浅香さんの曲である「人生まだまだ」のビデオをもらいました。とても元気が出る踊りと曲で、近所の踊りが好きな数名と一緒に覚え、敬老会や地域の納涼祭で披露するようになり、さらには地域の高齢者施設でも披露することになったのが相田さんがボランティア活動を始めるきっかけでした。

最初は7~8名のメンバーだったチームは相田さんの名前からとって「チームアイダ」と命名され、現在では34名のメンバーがいます。

4つのグループに所属しての ボランティア活動

地元でのボランティア活動を続けながら、65歳のときにさいたま市シニアユニバーシティにも通い始めました。そこで芸能発表会が行われ、相田さんは同期のメンバーに「人生まだまだ」と手品を指導しました。そのメンバー

は卒業後もチームを作って活動を続けています。同じくシニアユニバーシティの大宮校からも指導してほしいと声がかかり、大宮のチームも指導。現在では一緒に活動を行っています。

さらに、50代から始めた手品を今でも続け、浦和奇術愛好会の一員として活動しており、アイダも加えると現在4つのグループに所属しています。活動が終わったあとにみんなでお茶を飲むのが楽しみという相田さん。

「ボランティアはみんなが喜んでくれるからできる。人に楽しんでもらいたければ、まずは自分たちが楽しむこと」と、日ごろからメンバーに話しているとのこと。

疲れても一晩寝れば 元気になる

「ボランティアも健康があればこそ」と相田さんは言います。何件も予定をこなして疲れたと思うこともあるが、一晩寝れば元気になって、次の日も出かけたくなるそうです。

仕事をやめるときは「長年働いていたのでゆっくりしよう」と思ったのですが、そこでたまたま「人生まだまだ」に出会ったことで人生が変わりました。「そのタイミングで出会ったのも縁だった」と相田さんは話します。

ほそご たかし
細田 孝さん [でいとれセンターひばり浦和中央 管理者]

受け入れ先の声

相田さんとはもう2年くらいの付き合いですが、非常に親しみやすく明るい方で、利用者の受けもとてもいいです。ボランティアをやる人は自分から動く積極的で行動的な人が多いので、利用者も元気をもらう事ができます。ボランティアに興味があったら施設に問い合わせしてみてもいいし、り・とらいふや社会福祉協議会みたいところに登録するなど、積極的に動いてみるのがいいと思います。

※活動先、年齢は取材当時のものです。

このヒトに
ボランティア編 2
聞いてみた



い どう たかし 伊藤 隆 さん (80歳)

[ハーモニカの演奏ボランティア]

高校時代に 吹いていたハーモニカ。 定年後に再開

北海道出身の伊藤さんは、高校の卒業記念にバンドを組んで演奏するなど、音楽に興味はあったものの、上京して就職した時の日本は高度経済成長の真っただ中で、趣味に費やす時間や余裕はありませんでした。

その後61歳まで勤め上げ定年退

職。退職の記念としてプレゼントされたのをきっかけに、ハーモニカの通信教育を利用し、本格的な練習を始めました。

ある時、年金受給者の集まりで演奏をしたのがハーモニカ奏者としてのセカンドライフのスタートでした。その後近くに住む友人など4名でグループを作り、2002年より本格的に演奏活動を始めました。現在はり・とらいふ(セカンドライフ支援

よこはたともこ
横畑友子さん [あすなろデイサービス浦和 スタッフ]

受け入れ先の声

伊藤さんは気さくで、演奏が上手なうえに、話術も巧みで、途中の冗談めいた話で利用者を伊藤さんの世界に連れて行ってくれます。「この曲は長いけど、2番まで歌いましょう」など、利用者に乗せてくれるのが上手く、評判もいいです。利用者と年齢が近い伊藤さんの、はつらつとした姿が、利用者を元気づけてくれます。

※活動先、年齢は取材当時のものです。

センター)にてマッチングした高齢者施設等で演奏をしています。

400曲以上の レパートリーに加えて 司会もこなす

演奏のレパートリーは懐メロ・童謡・唱歌・演歌など400曲にも及びます。一番得意の曲は「ふるさと」で、もう500回以上は演奏しているとのこと。

演奏だけでなく司会も行う伊藤さん。人前で話すのは苦手だったのですが、70代になってやっとお客さんとの距離も縮まり、上手く話せるようになってきました。「話すことを考えても駄目。その場で雰囲気を感じながら話さなければいけない」と言います。

全ての演奏会を記録 頼もしいグループのリーダー

伊藤さんの目標は、演奏会を1,000回行うことで、現在950回となりました。経理の経験からまとめるのが得意な伊藤さんは、全ての演奏会の記録をつけており、今まで演奏した曲数もすべて分かるとのこと。演奏会では聞いてくれる方の人数や好み、誕生日の近い方の有無を聞いて演奏者の人数や曲を選んでいます。「自分が楽しいと思ったらみんなも楽しい。これがポイント。そして今はお客さんに喜んでもらえるのが何よりも楽しい。目標達成まで元気でいなきゃと頑張っています」と伊藤さんは笑顔で言います。



施設でハーモニカを
演奏する伊藤さん

定年後に始めたハーモニカ演奏で、間もなく1000回目の演奏会

1本のビデオがきっかけで始まった
ボランティア活動